

外国語学部 設置記念対談

2020年4月、文学部が外国語学部に生まれ変わります。その誕生を記念し、学長と文学部長へ向けてのメッセージを語ってもらいました。

日本も世界も変化する時代。
西南学院をさらに強くする。

学長 G·W·バークレー

学生が自ら選択する
弾力性のある学びへ。

●伊藤 2020年、半世紀に渡つて「語学の西南」を牽引してきた文学部が「外国語学部」として生まれ変わります。その背景には、

現在の大学教育や外国语教育の改革の方向性への対応、そして高校生から見た英文学科と英語専攻の違いの分かれりにくさへの対応といった理由があります。伝統と実績のある文学部を変えるリスクはありましたが、今後さらに国際化が加速する社会に対して勇気

拓いた学びで学生が成長を実感できることを期待しています。

言葉や背景の 違いを“認め合う”

多文化共生力を育てる。



●伊藤 外国語学部設置の検討では、文学部の特長といわれる「教員と学生の距離の近さ」「留学への支援体制の充実」「卒業時の満足度の高さ」を維持しつつ、さらに発展した学びの仕組みを目指しました。そうして実現したのが、「学生の興味や関心に応える弾力性のある組

に異文化への「入口」としての短期留学「FLS*—Gateway」、次に1年次後期に英語またはフランス語の運用能力を養成し、将来の外国语学部の発展を任う「名誉ある学生を育成する半期留学「FLS*—Honors」、そして2年次以降に海外の協定校へ優秀な学生を「大使」として派遣する「FLS*—Ambassadors」です。

*FLS: Foreign Language Studies (Foreign Language Studies) の略称

●伊藤 国際交流に積極的に参加する学生の絶対数を増やし、大学全体に海外に飛び出そうとするダイナミズムを生み出したいと考えています。そこで、外国语学部の学生の留学と国際交流を実現するため、学部独自の留学プログラムを実施します。まず、1年次の夏休みに、学部独自の留学プログラムを実現するはずです。

「真の国際交流への
ダイナミズムを生み出し、
大学全体に波及させたい。」



●バークレー 現在の英文学科、英語専攻、フランス語専攻の壁を取り払い、3つの科目群(①英語研究科目群・②フランス語研究科目群・③グローバルコミュニケーションスタディーズ科目群)を横断的に学べるところが外国语学部の大きなポイントですね。

文学部長(外国语学部長就任予定者)

伊藤彰浩

織とカリキュラム」です。
英語専攻、フランス語専攻の壁を取り払い、3つの科目群(①英語研究科目群・②フランス語研究科目群・③グローバルコミュニケーションスタディーズ科目群)を横断的に学べるところが外国语学部の大きなポイントですね。

●伊藤 そうですね。外国语学部の体制を水槽に例えるならば、学科専攻の壁を取り払つた二つの水槽の中を学生は自由に泳ぐことができます。しかし、目的(学びのコア)がないまま泳ぐのでは意味がありません。そこで、水槽の中に複数の「水流」を作る。それが「履修モデル」です。学生が自分の興味や関心、将来の職業選択を意識しながら、複数の履修モデルを参考にして自分の学びを選択し、デザインできるよう支援していくつもりです。

●バークレー 学びのコアを持つことは非常に大切です。好きなことを広く浅く学ぶのも悪くありません。しかし、「自分の学びはこれだ」というコアがなければ、学生の知性は磨かれません。自分の将来のために何を勉強すべきか。学生自身が考え、主体的に選択する。自ら切り

●伊藤 確かにそうですね。今後、ますます多くの外国人が日本を訪れ、それに伴い様々な問題やトラブルが起こることでしょう。その時、解決のために必要なのは相手を理解し、尊重しようとする「心」です。語学力はもちろん必要ですが、多文化と共生できる力があつてこそ、地域社会や国際社会に貢献することができます。その力を育むために、多くの学生に留学や国際交流に積極的にチャレンジしてほしいですね。

●伊藤 バークレー学長がおっしゃる通り、留学を通して眞の異文化理解の精神や国際感覚を獲得し、サポートを必要としている人や周りの友達のために役立ててほしいと願っています。また、キリスト教の精神に基づいた人間教育を実践している西南学院

織とカリキュラム」です。

英語専攻、フランス語専攻の壁を取り払い、3つの科目群(①英語研究科目群・②フランス語研究科目群・③グローバルコミュニケーションスタディーズ科目群)を横断的に学べるところが外国语学部の大きなポイントですね。

外国語学部、誕生。

文学部は外国語学部へ生まれ変わります。

これまで文学部で培ってきた伝統を土台に、従来の1学部2学科から1学部1学科へ。語学、文学、コミュニケーション学など、外国語学部が強みとする多様な学問領域を自由に選び、横断的に学ぶことが可能になります。高度な語学運用能力と深く豊かな教養、異文化理解の心を武器に、卒業後は、国際社会の最前線へ。あなたと世界をつなぐ扉を外国語学部が開きます。

意欲を引き出す横断的な学び

興味・関心に応じて、言語や分野を超えた科目の履修が可能です。

学生自身が卒業後のキャリアを見据えて学修プランを組み立てる自律的な学びを実践します。



外国語学部の特徴

POINT 1

1年次後期から留学が可能

1年次後期から参加できる、外国語学部独自の海外留学プログラムを新設。入学からの1年間で高レベルな英語・フランス語の運用能力を育成します。



POINT 2

アカデミック・アドバイザー制の導入

入学したその日から、教員を「アカデミック・アドバイザー」として配置。履修指導、留学支援、キャリア相談など、学生一人ひとりをきめ細かくサポートします。

POINT 3

グローバル志向の人材育成プログラム

エアライン・観光業はもとより、商社、国際機関、自治体の国際部門、NGO、NPOなど世界で活躍できる人材育成プログラムをそろえています。

● **バークレー** 本学の学生の多くの「留学したい」という希望を持つて入学してきます。しかし、なかなか留学生に踏み出せない学生がいるのも事実です。「留学はちょっと怖い」「失敗するかも」という不安はあるかもしれません。でも、失敗無き人生から成功よりも失敗から数多くのことを学ぶことができました。将来、外国語学部で学ぶ学生だけでなく、今、本学で学ぶ学生にも恐れずに一步を踏み出してほしいですね。



学長

G.W.バークレー

1984年米国サザン・バプテスト神学校大学院博士課程修了(Ph.D.)。同年宣教師として来日し、1987年に本学に赴任。研究テーマは、2～3世紀エジプトのアレクサン드리ア地方のキリスト教史。神学部長、宗教部長などを経て2006年から2014年まで西南学院大学学長を務めた後、2018年12月、西南学院大学学長に再任。

● **バークレー** 日本社会も、世界も変わり続けています。そうした目まぐるしい変化の時代、西南学院も変化を恐れず進んでいかなければなりません。現状維持は終わりの知らせです。本学の校歌の一節にある「永遠の学院」になるためには、様々な取り組み、新しいチャレンジを進めていかなければならぬのです。ぜひ、西南学院をさらに強くするためのこれからをさらに強くするためのこれまでの様々な取り組みにご注目ください。

information

外国語学部に対する、
ご意見、ご感想を募集しています。

こちらのメールアドレスへご連絡ください。
ito@seinan-gu.ac.jp

- 西南学院大学外国語学部ホームページ
http://www.seinan-gu.ac.jp/info_fls/index.html
- 伊藤彰浩教授によるコラム「雲の柱・火の柱」(Spirit208号)
http://www.seinan-gu.ac.jp/spirit/_data/19_spring/h02.pdf

ならではの、相手への思いやり、すなわち、多文化社会で共に生きる力を育てることができるはずです。

● **バークレー** 本学の学生の多くの「留学したい」という希望を持つて入学してきます。しかし、なかなか留学生に踏み出せない学生がいるのも事実です。「留学はちょっと怖い」「失敗するかも」という不安はあるかもしれません。でも、失敗無き人生から成功よりも失敗から数多くのことを学ぶことができました。将来、外国語学部で学ぶ学生だけでなく、今、本学で学ぶ学生にも恐れずに一步を踏み出してほしいですね。

文学部長
(外国語学部長就任予定者)
いとう あきひろ
伊藤 彰浩

1970年愛知県生まれ。広島大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。専門は応用言語学。これまで大学英語教育学会、英語コーパス学会、日本言語テスト学会の学会賞を受賞。英國ランカスター大学言語学・現代英語学部客員フェロー等を経て、2009年4月から西南学院大学文学部教授。2017年4月から文学部長に就任し、現在2期目。2020年4月初代外国語学部長就任予定。

語学部の取り組みは西南学院大学をぜひ「厳しい目」で見守ってください」と伝えたいと思っています。学生の皆さんを見て、「自分もがんばろう」と思えるか。そして、外国语学部の学生を見て、「自分もがんばるべきかもしれません。しかし、誤解を恐れずに率直な気持ちを述べるならば、「新しい外国语学部をぜひ『厳しい目』で見守ってください」と伝えたいと思っています。

